

てきたのはバッタ風。何とかカマキリがほしいと通じない中国語で話すと、中国の最後で最高の例の無いの言葉、没有(メイヨウ)がでた。仕方がないのでバッタ風と他の虫風を少々買い求めた。珍しいミツバチ風などないのかと漢字で書くと、これも没有との返事。これほど有名な風屋さんなのだからいろいろ揃えておいてほしかった。その後は昼食の時間となり南市食品街で有名な「狗不理包子」(ユウプーリーパオツ)を運転手さんと共々食した。食事後、時間が少なくなってきたので古文化街はいったことがあるので運転手さんに不要といったが、うまく通じなかったのか古文化街へも連れていってもらった。先般、北京訪問の際、天津ツアーに参加し、一番に行った文化香る街で、明・清代の古い街地を往時そのままに改修したところである。庶民の生活雑貨が中心なので大変面白い土産物がある。おかげで内面画の鼻煙壺など買い求めていると、前のツアーで古文化街の隅々まで聞いて買い求めようとしたが無かったカマキリ風があるではないか。それも逆さカマキリという形の風であった。またミツバチ風も見つけた。あれだけ前回調べたのに買えなかったのは時期のせいかもしれない。諦めていたのに運転手さんに感謝である。次は天津工芸美術服務部へ行ったが、

これといったものはなく、やがて友誼商城へ。上海にある友誼商城と同じく外国資本が入っているのか日本のデパートとそうは変わらない。やっと5階に中国らしい商品があり、ここでも筆者の好きなグッズが入手できた。購入を済ませ外を見るときもう暗闇の世界となっていた。やがてホテルへ送ってもらい運転手さんと昨日から乗りまわしているフォルクスワーゲンに感謝しつつチャーター料と僅かのチップを渡し、感謝の極み。多謝。

2月15日 昨日の資料入手により、本日の午前中は当てもなくホテル近くをうろつき散策をした。ホテルの近くは市政府の役所ばかりだが春節で休みが多いようだ。そこで巻貝などを採集し、やがてホテルへ。昼前、現地案内人がやってきて帰国の準備となり、また、あの運転手さんに空港まで送ってもらった。案内人の女史から説明を受け税関へ入ったところ、ちょっとしたハプニング。カバンの中味は何だということらしい。そういえば天津の観光客でこんなに多くの荷物を持って帰る人が少ないから不思議に思われたのに違いない。天津風と説明したが掛軸もあるとのことと別室へ。1箱だけ開けられ念入りに見られたが了解がとれ、無事機上の人となった。

播磨地方におけるアサギマダラの 新たな越冬産地 木村三郎

筆者は以前からアサギマダラの越冬産地を探索していた。その内の1カ所で、1998年11月21日神崎郡香寺町の八徳山において、3齢幼虫1頭と卵を20卵確認しているのを報告しておきます。

キジョランの生育範囲としては、いままで発表された場所の中では一番小さいかと思えます。現地ではアサギマダラ幼虫の特徴ある丸切りの新しい食痕も多く見うけられたが気温が高いため、クモ等の天敵に襲われたらしく3齢幼虫以外の若齢幼虫を一頭も確認出来なかった。ただ、卵が20卵確認できたので何頭かは越冬蛹化後、羽化するものと思われる。

他の播磨地方での越冬産地として、姫路市の書写山の六角、刀出側・夢前町の明神山北側・夢前

町と安富町にまたがる雪彦山が環境的に確認出来るのである。今回の確認により兵庫県における越冬産地として

- ①南光町の船越山
- ②加美町の高蔵山
- ③福崎町の七種山
- ④相生市の能下
- ⑤上月町の飛龍の滝
- ⑥香寺町の八徳山

の6カ所となった。

ただ、1998年9月植物調査に行った際、⑤の飛龍の滝の発生地が、材木運搬の索道基地となってしまう大変荒れてしまっていたのが残念である。

本稿を草するに当たり、いつもご指導いただいている広畑政巳氏にお礼申しあげる。